



秋厚労ニュース

働きたいと思える職場づくり

2018年度 運動方針案より

2018年度方針案についてお知らせします。詳しい内容は支部へ7月に送付し、8月4日(土)の第8回中央委員会で論議しました。第71回定期大会で意見を出してもらい、確定する予定です。

人手不足と労働環境悪化の「悪循環」をなくす

1980年代以降、国は医療を含む公的社会保障を破壊し、大企業の利益最優先の国づくりを進めてきました。病院は採算が取れにくく、住民は医療などを受けにくくなっています。最近では、秋田県全体で2134床の病床を削減する「地域医療構想」や、各県の厚生連病院を農協から分離する「社会医療法人化」も提示されています。

時間外手当を きっちり請求

秋田県厚生連では、「人手不足」によって「恒常的な長時間労働・休みが取りにくい・夜勤回数が多い」など労働環境がさらに悪化する「悪循環」が引き起こされています。この「悪循環」をなくす必要があります。

方針案の柱は4つ。①労働条件を改善し、辞めな

い職場をつくる②共感の輪を広げ仲間をつくる③日常の活動に力を入れる④患者・住民視点で地域医療をつくる」です。

引き続き「内外の人が働きたいと思えるような職場づくりを進めます。重点は

医療政策による「ひずみ」は、様々な形で現れます。例えば採算優先の経営、人手不足、「患者のことを思った医療ができない」状況、ギスギスした人間関係、委託・派遣・外注化など。その職場固有の問題に見えます

共感の輪を広げ 解決を目指す

労働時間とハラスメントの問題。秋厚労は「定時で帰り、人間らしい生活をする」ことを目指しています。定時で帰れない時は、時間外手当をきっちり請求する運動を広げます。経営者は病

床稼働率・実施単位数などの「数値」を重視しますが、「数値」に表われない仕事を可視化します。スタッフ同士が話し合っ物事を進め、ハラスメントが起きにくい職場づくりに取り組みます。

住民視点の 地域医療づくり

労働組合は、組合員が団結してはじめて力を発揮します。各支部で行っている、支部交渉や集まる機会を増やす取り組みを大事にします。活動上の悩みは全支部・本部で一緒に解決を目指します。

精神科常勤医を探す鹿角の住民運動や、廃止の危機にあった病院を新築させた湖東の住民運動などに学び、住民・行政・病院と一緒に地域医療を考える場をつくり

2018年度 具体的な行動方針案

- 《課題1 労働時間をきちっと守る》
- 《課題2 ハラスメントと闘う》
- 《課題3 お休みはお互いさまの職場をつくる》
- 《課題4 働き続けることができる賃金や一時金を確保する》
- 《課題5 初任地や転勤の問題点を改善する》
- 《課題6 臨時職員という差別雇用を是正する》
- 《課題7 定年や再雇用の問題点を整理する》
- 《課題8 安心して働き続けることができる職場をつくる》
- 《課題9 現場スタッフとの懇談を続ける》
- 《課題10 患者さんと心通わせる病院食をつくる》
- 《課題11 検査の人手不足解決をめざして運動する》
- 《課題12 患者さんと心通わせる看護をつくる》
- 《課題13 在宅医療の改善を目指して運動を起こす》
- 《課題14 リハビリ職場が抱える課題の解決をめざす》
- 《課題15 住民とともに医療を守る》
- 《課題16 県内各地を会場に「医療に関する学習会」を開催する》
- 《課題17 国に対する働きかけを強める》
- 《課題18 女性がいきいきと働ける職場をつくる》
- 《課題19 青年がいきいきと働ける職場をつくる》
- 《課題20 教育宣伝部を大きくし、多面的な活動をする》
- 《課題21 支部と本部が連携して取り組みをする》
- 《課題22 「集まる」ことを大切にする》
- 《課題23 みんなに知らせ、みんなで作る、みんなでお悩み、みんなを決めて、みんなで行動する労働組合をめざす》
- 《課題24 医労連共済を普及する》

ます。